

歴史と自然を満喫！

明智城跡 散策路マップ

明智城跡

明智光秀が生まれ、落城するまでの約30年を過ごしたと伝わります。
『美濃国諸旧記』によると、可児郡の明智城は、土岐頼兼が康永元年(1342)に築き、明智氏代々の居城となったと書かれています。また、弘治2年(1556)、明智光秀の叔父にあたる光安が城主である時、稲葉山城主斎藤義龍の攻撃を受けて落城したと言われています。



てんさい
10才みっひでクン
岐阜県 可児市

1. 七ツ塚

『明智城と明智光秀』によれば、本丸南南西の尾根の頂上に戦前まで東西に一線をなして、七ツ塚が残っていたとされます。これは現在本丸とされる場所の南側にあたる場所であり、7基の盛り土が残されています。一説には1556年の明智城での合戦の際に戦死した明智方の将7人を葬ったと言われています。

2. 展望台から眺める明智荘

現在、明智という地名はありませんが、かつては現在の可児市北東部から御嵩町西部にかけて「明智荘」という荘園が存在していました。明智光秀は土岐氏流明智氏の出身だとされますが、その名字の由来となった地が明智荘であると考えられます。『美濃国諸旧記』では、明智荘は明智氏代々の所領であったとしています。ただし、現在、瀬田地区の狭い地域に寺院が集中していることや、字名に「東屋敷」「西屋敷」「大屋敷」などの名が残ることから、有力な武士層の存在がうかがわれるという説もあります。



3. 六親眷属幽魂塔

六親眷属とは、仏教における用語で、一族や親戚すべてを指す言葉です。施餓鬼供養などで使われる用語なので、一族や類縁の者を何らかの目的で供養した石造物であるといえます。この石造物は昭和48年(1973)に発見されたもので、発見当時は地中から5cmほど頭を出した状態で埋もれていたといえます。発見時には「六親眷属」とは明智一族・家の子郎党を指すものであると推測されました。以降、逆臣とされた明智光秀をはばかって、明智城将兵の供養のために瀬田村の人たちによってひそかに建立された供養塔として、発見場所近くに祀られています。



問い合わせ先 可児市観光交流課
Tell 0574-62-1111

明智城跡 散策路マップ

AKECHI CASTLE RUINS
TRAIL MAP

おおてもん
大手門 Ootemon



てんさい
10才みつひでクン
岐阜県 可見市

あいくしん けん ざく ゆうこん とう
3.六親眷属幽魂塔

Rokushinkenzokuyuukontou



てんぼうだい
2.展望台
Observation Deck



あけち じょうあと ひ
明智城跡碑
Akechi Castle Ruins Monument



ば ぼう さく
馬防柵
Horse Resteain Fence



さかもぎ
逆茂木
Abatis



ななつづか
1.七ツ塚
Nanatsuzuka

